

# 新基地建設やめて—名護市民の選択



## 市民が審判！

基地にほんろうされ、市民が2分された13年。基地に頼らない新しい町づくりを！

## 「新基地建設反対」の

## 稲嶺新市長が誕生

政府は普天間基地の「無条件返還・撤去」で本気でアメリカと交渉せよ

普天間基地の移設先（名護市・辺野古）とされ、「新基地建設」が大きな争点になった名護市長選挙で24日、「あらたな基地はつくらせない」と掲げた稲嶺さんが当選しました。

名護市では1997年、市民投票で新基地建設反対が過半数を占めており、稲嶺さんの勝利は、あらためて「基地はいらない」という名護市民の意思を明確に示したものです。

## 危険な基地はどこにもいらない

普天間基地は住宅地や学校、保育所、病院など密集地に隣接し、「世界一危険」と言われています。

へりや輸送機の騒音、墜落の危険など戦後60余年たった今も毎日、住民は基地被害におびえる生活を余儀なくされています。もともと普天間基地は、国際法にも違反して、米軍が戦後も占領し続けているものです。奪ったものは無条件で返還するのが当然です。

政府は、今こそ基地のトライ回しをやめ、普天間基地の「無条件返還、撤去」の立場でアメリカに堂々と交渉するべきではないでしょうか。鳩山内閣は、名護市民・県民の切実な願いに耳を傾け、ただちに辺野古への基地建設を中止すべきです。

ことは、アメリカ言いなり政治の大元にある「日米安保条約」が発効して五十年です。もう、見直しをはじめようではありませんか。